



原子力問題におけるコミュニケーション課題 ～法律家の視点から～

コミュニケーションの重要性
原子力への女性の理解に向けて何が必要か

2014.11.18

一般社団法人 日本原子力産業協会



弁護士 中村多美子

コミュニケーションから合意形成へ

科学技術一般に敷衍される従来の議論

科学技術のリテラシー

- 高度に専門的な原子力関連の知見の理解のためには、基礎的な科学技術リテラシーが必要
- 正確で客観的な情報の提供
- 一般の人々も、正しい知識を取得すれば、専門家の主張を受け入れるという「欠如モデル」

それでも

- **科学技術のリスクに対する専門家と社会の評価結果が大きく異なる**

リスクコミュニケーション

- 専門家の意見がわかる
- 科学技術に内在する不確実性
- どんなに情報を提供しても、人々の不安が減らない。
- 専門家のリスク認知と素人のリスク認知の差異を意識したコミュニケーションの必要性
- 情報をどう伝えるか
- **情報源に対する「信頼」の醸成**

社会における合意形成

- 双方向性
- 対話型
- 市民参加・住民参加

八木絵香

「対話の場をデザインする 科学技術と社会のあいだをつなぐということ」

大阪大学出版会 2009 より

原子力に関するコミュニケーションについて
女性を対象とした暮らしとエネルギーに関するアンケート調査結果を参考に

総論

女性の関心も理解も決して高いとは言えない。女性の社会での役割が増せば増すほど、社会における重要な課題に対しては、**責任ある**態度で臨むこと、言い換えれば**自立した**意見を持ち、行動することを求められる。

提言1

暮らしと環境のカギを握るエネルギーについて、未来の子供たちのためにも、私たち一人ひとりが関心を高め**意見を持とう**。

提言2

ゴミ問題や温暖化等の環境問題、省エネルギーや電話代・ガス代等の身近な問題を入り口にして、エネルギーについて**考えよう**

<http://activity.jpc-net.jp/detail/eep/activity000557.html>

H16.6.16 公益財団法人 社会経済生産性本部

原子力に対する女性の理解に関する巷の言説

よくあるとされる「女性」の意見

- 難しくよくわからない
- 危険と言っている専門家もいる
- 原発がなくても電力は足りてる
- 安全と証明されていない
- リスクはゼロではない
- 説明されても信頼できない
- 最後は軍事利用される
- 母親として子どもたちを守らなくてはならない
- 核のゴミはどうするのか

科学リテラシーに関する言説

- 女性は数字が苦手
- 女性は科学が苦手
- 女性はイメージで感覚的に問題を捉える



リスクコミュニケーションに関する言説

- 身近な話題にする(電気料金・ガス代金)
- 親近感のわく言葉への言い換え
- 気持ちに寄り添う
- 信頼できるオピニオンリーダーが必要

リスクコミュニケーションの推進方策

平成26年3月27日 文部科学省 安全・安心科学技術及び社会連携委員会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/064/houkoku/1347292.htm

- **定義:** リスクのより適切なマネジメントのために、社会の各層が対話・共考・協働を通じて、多様な情報及び見方の共有を図る活動
- **目的:**
 - ① ステークホルダーの**行動の変容**
 - ② 問題の発見と可視化
 - ③ 異なる価値観の調整
 - ④ リスクマネジメントに関する合意形成への参加
 - ⑤ 被害の回復と未来に向けた一歩の支援
- **重要事項**
 - 個人のリスク認知(ハザード+アウトレージ)と社会のリスク認知
 - 権限と責任の非対称性
 - 統治者視点と当事者視点

リスクコミュニケーションによる 合意形成モデル

社会的な合意形成？
なんとなく合意形成できる？

リスクコミュニケーション
科学リテラシーを備えた
利害関係者による幅広い対話。

科学的事実
正確で客観的
わかりやすい情報提供。

双方向性



対話と合意形成(1)

科学的に、合理的に、わかりやすく説明できる人が情報提供することにより
周囲の理解が得られる？(従来型)



オピニオンリーダーによる
科学的情報の提供

対話と合意形成(2)

双方向性 対話型 住民参加



This text can be replaced with

専門家と非専門家による(直接)対話

社会集団での合意形成の不全

集団的な行動の選択・意思決定では、対話を繰り返しても、
論点がなかなか収束しない



各人がそれぞれに異なる側面を正しく理解する結果、人々は全体として、全てを正しく理解する」ということが本当にあるのか？

わかりやすいパンフレット



女性のおピニオンリーダー



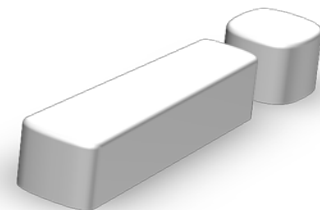
対話型フォーラム開催



原子力に関する知識が増大すると、むしろ女性では恐怖感が増大する



身近な話題での説明



大西輝明「科学技術のリスクコミュニケーション(5)
(人々にリスク情報を伝達するにはどのような問題があるのか)
<http://homepage3.nifty.com/anshin-kagaku/sub050829ohnishi.html>

ネットワークとアイデンティティ



話しあえば合意形成できるわけではない

集団極化 (Group Polarization) 発生の可能性

- 考えの似通った人々による「反復的極化ゲーム」
- 孤立集団内の熟議 (enclave deliberation)
- 社会的カスケード現象
- 「情報」と「評判」の外部効果
- 説得討議理論 (Persuasive argument theory)



よく知られ、長く論じられてきた
問題については、
脱極化は簡単には起こらない

キャス・サンスティーン
「熟議が壊れるとき

民主制と憲法解釈の統治理論」

那須耕介編・監訳 頸草書房 2012年

社会的意思決定における コミュニケーションのヒント

1

熟議が広くて異質混交的な公共圏で確実になされること

2

似通った考えの人々が別の見方に対して壁を作るのを防ぐ

3

他者の視点から物事を見る機会を与える

4

広く社会において後に正しいと判明する可能性がある、少なくとも情報としての価値はあるとされる可能性をもつ様々な見解を隅に追いやり、遮断してしまわない状態を確保する

5

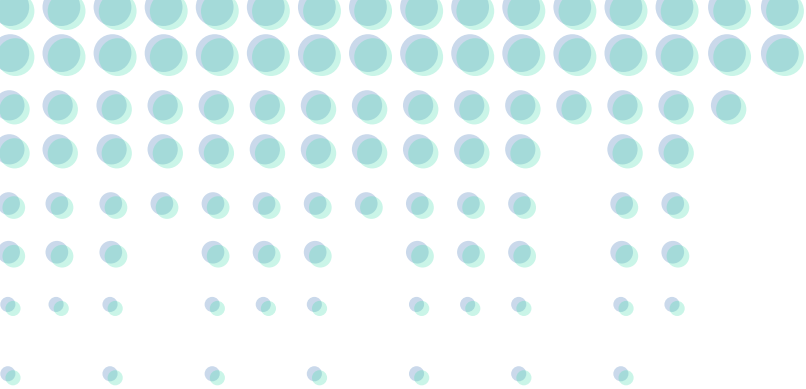
対話の目的は、孤立集団の内外にいる人々の利益の促進

相互に対立する多様な価値の問題をどう社会的に解決(意思決定)するのか?

他者に対する強制の契機を含む
法的な議論

特定の政策の法的正統性を
どうやって判断するか





キャス・サンスティーン
「最悪のシナリオ
巨大リスクにどこまで備えるのか」

田沢恭子訳・齊藤誠解説 みすず書房 2012年

国家は最悪のシナリオについてどう考えるべきか

無視するのか、それとも過剰に重視するのか。実際にどうしているかは別として、
低確率の大惨事のリスクにはどう対処すべきか？

費用便益分析

- 規制に伴う便益によって費用が正当化される場合に規制を行う
- 純便益が最大となる規制を採用する
- 特別な懸念をもたらす危険に対してはセーフティマージンを設ける
- 予防原則は不安の文化の創出
- 費用と便益の双方が社会の視野に入っていれば、人は直感的に費用便益分析を行う。
- 予防原則は麻痺状態を引き起こす
 - リスク削減自体が別の最悪のシナリオをもつ可能性

予防原則

- 科学的不確実性があっても規制を求め、**現世代の内部の公平**、および**世代を超えた公平**を目指す
- 便益は特定困難(金銭評価が恣意的)
- 道徳や政治に関する擁護しがたい判断を覆い隠してしまう
- 統計学的に等価でもリスクの質が異なるものが看過される
- 一般人は、**未知で、制御できず、自分の意思によらず、不可逆で、不公平に分配され、人為的で、壊滅的なリスク**をとりわけ嫌う(規範的枠組み)。
- 費用は受益者でない者がしばしば負担する

不完全に理論化された合意

価値の議論を可視化する

壊滅的な損害に対する予防原則

- 不確実な状況下で最悪のシナリオを排除するかどうかを決定する際、規制当局者はそのシナリオの排除により生じる損失について、またある方針をとった場合と別の方針をとった場合の最悪のシナリオの差について、考慮すべきである。一方の最悪のシナリオが他方より著しく有害であり、その最悪のシナリオを排除するための方針をとることが極端に大きな負担をもたらさないなら、規制当局はその方針をとるべきである。しかし、一方の最悪のシナリオが他方より著しく有害というわけではなく、その最悪のシナリオを排除するための方針をとることが極端に大きな負担をもたらすなら、規制当局者はその方針をとるべきではない。



キャス・サンスティーン
「最悪のシナリオ」より